

# 五省会ニュース

発行所  
 特定医療法人五省会西能病院  
 〒930 富山市五福1130  
 TEL (0764) 41-2481(代)  
 発行人 西能 正一郎

## 派遣医師の協力で万全の体制

### 高度な医療サービスを提供

#### 富山医薬大ら三大学から総勢十九人

西能病院は、三大学から常勤、非常勤あわせて総勢十九人の派遣医師の協力を受けて高度な医療体制を整えている。富山医薬大の十六人をはじめ兵庫医大二人、金大医学部一人である。大学別の診療担当は次のとおりである。(五月二十日現在、順不同)



#### 地域医療の充実を目指す

##### 富山医薬大

常勤は内科の今村武史(一般、糖尿病)石原元(一般、糖尿病)の二医師で、いずれも外来、病棟担当。

非常勤は、内科で碓井雅博(一般、循環器)田口芳治(一般、循環器、病棟)荒井信貴(一般、呼吸器、外来、在宅診療)松井祥

##### 富山医薬大

常勤は内科の今村武史(一般、糖尿病)石原元(一般、糖尿病)の二医師で、いずれも外来、病棟担当。

##### 人間ドックに

##### 二医師

##### 兵庫医大

田村和民(消化器)澤田幸男(消化器)の二医師が人間ドックを担当。

##### 金大医学部

坂尻顕一医師(神経内科)が外来、病棟。

このほか、布村忠弘医師(内科一般、循環器)は外来。

また、坂本美奈子心臓内科を担任している。

##### 特殊外来の

##### 一利用を

内科ではつぎの四部門で特殊外来を開設している。

糖尿病 今村、石原  
 両医師の担当で火・金  
 循環器 碓井医師の  
 担当で火・木  
 泌尿器 釣谷、十二  
 町両医師の担当で月  
 神経内科 坂尻医師  
 の担当で土。

## アトランタ

### オリンピック近し

#### 西能 迄

世界中が注目する、アトランタオリンピック開催の七月二十日まで、あと五十余日となった。

## ウーマンパワーの活躍に期待

#### 西能 迄

世界が注目を集めるアトランタオリンピック開催の七月二十日まで、あと五十余日となった。

追及など、人間の能力の限界に挑戦する姿が、全世界に熱い感動とドラマを与えてくれることは、間違いない。

しかし、オリンピックは国別の対抗戦であることも事実で、選手の活躍に期待した

## あすなろ

昔の人は焼き魚でも煮魚でも実にきれいに骨をとって食べた。ハシで器用にさばいて骨だけを美しく残すその食べ方は芸術的にさえ見える。

そんなマナーもだんだん影をひそめた。現代っ子は「魚より肉がいい。うまい、まずいより、骨をとるのが面倒」だそうだが、まして骨ごと食べる小魚となると苦手で敬遠し勝ち。先日の厚生省の国民栄養調査によると「小魚はほとんど食べない」が二十歳代ではなんと六割。六十歳代ではわずか二割だった▼それを反映してカルシウム不足が指摘された。ほとんどの栄養素が健康維持に必要な量を上回っているのにカルシウムだけが大きく下回った。一人一日当たりの必要量は603ミリグラムなのに摂取量は545ミリグラム▼細かく分析すると、必要量を100とした場合、平均摂取量はエネルギー1102、たん白質1122、ビタミンA145、同B1151、同B21122、同C1238、糖分1105、鉄1105、ナトリウム105、カルシウムだけが90▼不足が目立つのは二十歳代について十代と三十代。とくに外食が主な層にその傾向が強い。

それに世帯間の格差がはつきりしてきて、必要量を二割も上回る世帯が二割いるのに対し、二割以上不足している世帯が四割もいた。骨粗しょう症の予防などの観点から配慮すべき重要課題と厚生省は危険信号を出している。

## 新人の抱負



**チャレンジ精神で**  
 人との関わりを大切に、チャレンジ精神を忘れず、自分の道を広げていきたいです。  
 (看護部 高野紀世)



**前向きに取り組む**  
 新卒一年間は社会人看護婦として沢山のことを吸収できるように前向きに取り組みます。  
 (看護部 池田 司)



**健康に心掛けて**  
 社会人、准看護学生一年生として職場と学業を両立出来るよう健康に心掛け頑張ります。  
 (看護部 林 泰治)



**笑顔で親切に**  
 初心を忘れることなく、患者さんには笑顔で親切に接していきたいです。  
 (看護部 七間由美子)



**一日一日を大切に**  
 一日一日を大切に早く仕事を覚え、信頼される笑顔の似合う看護婦でいたいです。  
 (看護部 田中紀子)



**自分の意志を持って**  
 挫折することなく自分の意志を持ち続けて目標に向かって頑張っていきたいです。  
 (看護部 政 智美)



**笑顔を忘れずに**  
 京都から来て環境に慣れず不安一杯ですがトレッドマークの笑顔を忘れず頑張ります。  
 (看護部 川崎とよ子)



**初心を忘れず**  
 社会人としての心構えをもち、「初心を忘れず」責任を果たすため頑張ります。  
 (看護部 伊藤 晃)



**何事にも積極的に**  
 勉強と仕事の両立は大変だと思いますが、何事にも積極的に取り組んでいきたいです。  
 (看護部 島田香織)



**個別的な看護を**  
 整形外科の看護婦として業務を把握し個別的看護が提供出来るよう学習して行きます。  
 (看護部 盛田小織)



**接遇に気配りを**  
 患者さんの環境整備、食事、接遇に気配りをし治療効果を高めるよう努力します。  
 (看護部 山本美子)



**おいしい食事作りを**  
 少しでも患者さんから「おいしい」と言ってもらえる食事作りを心掛けていきたいです。  
 (栄養部 正路真規子)



**一歩一歩確実に**  
 素直な気持ちと笑顔を忘れずに、一歩一歩確実に進んでいきたいです。  
 (看護部 牛丸幸子)



**心遣いができるように**  
 解らない事が沢山ありますが、患者さん、先輩にも心遣いが出るようつとめます。  
 (看護部 豆川理恵子)



**明るい対応を**  
 受付をしています。早く仕事を覚えて、患者さんには明るく対応したいです。  
 (医事課 平井達也)

## 五省

- 一 至誠は悔るなかりしか
- 一 言行に恥るなかりしか
- 一 氣力に慥るなかりしか
- 一 努力に憾るなかりしか
- 一 不精は怠るなかりしか



「うまいこと描いてある」と米田壽吉氏
昭和四十八年に初めてパリへ行くと、ルダム寺院を見た時、とても感激して絵にしたいと強く思っていました。...

わたしの 気に入りの絵

米田 壽吉 医療法人五省会理事



心をこめて鶴を折る黒田さん

大地を踏み 人と自然にふれあう散歩

大地を踏み

②

黒田富美子さん(六)の中には、色とりどりの小な折り鶴があふれんばかり。これだけで千三百くらいか。...

「整形内科も神経内科もあるのだから、薬と造血剤の注射のおかげで、どうにか身のまわりはさあややかさるんですよ。...

「あ、うまいこと描いてある、こんなふうには描けなかったんだ」と思っていたら、愛敬もたつぷりの笑顔が魅力的です。...

「朝の番組「めざましテレビ」(毎週月曜〜金曜朝五時五分放送)のレポーターとして活躍中の谷優子さん(三〇)。...

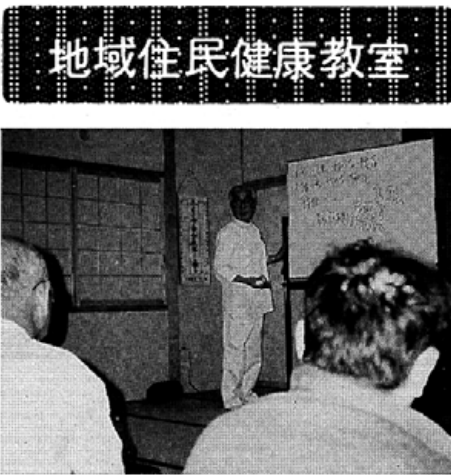
「朝朝三時に起床、と風邪知らずです」
西能 お菓子が置いてあると、食べてもいい」と言われた時、どれをつかむか、大きさを目算する。(笑)

「国家権力の枠をはずさないと」と小池弁護士
西能 正一郎対談シリーズ
いまを生きている



「仕事しかやることがない」と嘆きつつも、つぎのことない仕事への情熱を燃やし続ける二人。...

「親が子どもをかまいます」
小池 ところで、僕は一昨年末で弁護士会の外部団体の(財)法律扶助協会の富山県支部長を退任してまいりました。...



地域住民健康教室

明日の笑顔のために 予防医学で健康を守る

地域に開かれた病院を目指している西能病院は、富山市五福四区町内会からの提案で、地域住民を対象にした健康教室(担当は健康事業部)を開催。...

心身共に健康に

第一回の五福四区健康教室は、四月二十二日、五福四区公民館で午後七時から開かれた。...

まじえた話に、参加者約二十名が熱心に聞き入った。...



高見良明さん

栄養 上手なとり方

ビタミンCといえは新鮮な野菜や果実、レタスやキウイなどのサラダを連想する人が多いため、...

死ぬまで仕事を たくましく鍛えられた少年時代

「仕事しかやることがない」と嘆きつつも、つぎのことない仕事への情熱を燃やし続ける二人。...



「休んでも一日に一回は病院へ行く」と西能理事長

「仕事しかやることがない」と嘆きつつも、つぎのことない仕事への情熱を燃やし続ける二人。...

わが病床六尺メモ

なんぢのなんぢ

木下周一

毎晩見る夢の中では、私の両手両足はごく普通に通き障害は全く無い。夢から覚めると、全体がベッドに張り付いたように硬直している。うごとをきかない。まわりに集まった人に、向かいの予備校に連絡を頼む。「ローニン ハナサクだから、六二の八七三九です」といった。しばらくして、分校校長と事務長が来て救急車を呼び石川県立中央病院へ搬送してもらった。

眼鏡が飛び散り顔のあちこちが痛む。ふと気がつく、両手両足がガラリとしていて言うことができない。まわりに集まった人に、向かいの予備校に連絡を頼む。「ローニン ハナサクだから、六二の八七三九です」といった。しばらくして、分校校長と事務長が来て救急車を呼び石川県立中央病院へ搬送してもらった。

はようございます。○月○日○曜日です。六時になりました。着替えをしましょう」という放送で、いやでも応でも辛い一日が始まる。さて、私たちはケイソン患者と呼ばれている。ケイソンとは頸髄損傷の略である。屋根から転落した大工の棟梁、バイク事故の大学生、自動車事故の青年など皆ケイソン仲間である。どの人も多少の差があるにしろ、毎日、生き地獄の苦しみの中に喘いでいる。いや正確に言えば、本人と共に家族も苦しみの毎日である。私で言え、両手両足が全く動かないので、朝起きてから夜寝るまで妻の世話になりっぱなしである。洗面、食事、着替え、入浴、大小便、きりがない。涙が出て拭くこともできない。目の前のテレビのスイッチひとつ自由にできない。

子供の頃聞かされた地獄には火の山、針の山、血の池があるそうだが、ケイソン患者はまさにこの生き地獄にいるといえよう。長時間の正座に慣れない人は、足先に鬱血のためしびれと熱さをよく経験するが、ケイソン患者の場合は大変だ。私の場合は両手両足の皮膚全体がしびれ燃えるように熱い。冬の間も病室の暖房は切ったままだし、足にはペラペラのタオルを掛けただけである。医師は「神経の不完全な麻痺による灼熱感であり、どうしようもない。皮膚呼吸も発汗作用もできず、これから夏になるともっと大変だ」とはつれない話だ。まさに灼熱地獄である。

私がこれを引いてしまった。眠れない夜が続き、繰り返しくりかえし、後悔が湧いてくる。あの時なぜ転倒したのだろう。転倒しても、なぜ足から滑らなかつたのだろう。いやなぜ六華苑へ行ったのだろう。それよりも、平成五年三月に学校を辞めているべきだった。次から次と後悔が続く。しかも痺れと火照り、痛みとケイセイにさいなまれ、深夜ひそかに病める老ライオンのように天井に向かって唸るのみである。

平成五年九月二十七日(月)の朝、私はいつもの通り富山予備校に行き、九時三十分から十一時まで授業をやり、富山駅発十二時のJRで金沢に向かった。十三時、下車。金沢駅西予備校での授業は十五時からなので、学校の筋向かいの六華苑で昼食をとろうと入っていった。玄関前へ来ると、駐車場から車が出てきたのでそれに気をとられ、ポーチの敷石の僅か六センチほどの段差に躓いてしまった。倒れてなるものかと、むしろ前に一、二歩走ったところで尻餅をつく。ポーチは九谷焼きの赤煉瓦が敷きつめてあり、その上を履(そり)のように、両手両足を前に伸ばしたまま、物凄勢いで滑ってゆき、積込みの赤煉瓦垣に顔から激突してしまっ

ともかく手術は終わった。私には話はなかったが、これから重大な障害をもつだろう、多分四肢の自由を欠くだろうとは、全く知る由もなかった。首筋の手術の傷跡もつながら、富山へ移つてもよいということ、十月十三日九時出発することとなった。玄関前には民間救急車が来ており、世話になった看護婦さんが数人も見送ってくれた。島先生の最後の言葉が印象的だ。「奇跡を信じましょう」かくて、ゴツゴツとした固くて狭いベッドにグルグル巻きに縛られたまま、妻に付き添われ富山市に向かった。

加えて、ケイセイという症状がある。痙攣の性と言う意味で、全身にひきつけが走る。倒れた頃は左足だけであつたのが、最近では、体を触られても、咳やクシャミだけでも全身が数分間硬直状態となり、胸や腹がなめし革で締め付けられるようだ。次に針の山だが、両肩に痛みがあり、着替えのために横向きにされると体の重みが伝わって、釘を打ち込まれたように痛む。導尿や排便のことを書くのは辛い。いささか持っていたプライドも糞尿にまみれ、血の池に溺れるようにあまりにも悲しい思いだからである。現世に地獄が存在するとは初めて知った。

このメモも、天井から吊り下げたエキスパンダーのパネに僅かに動く腕を通し、金属性の装具に箸を付けたものを拳に巻き付け、パネの力に抵抗しながら、キーボードを叩いて、三カ月もかけてようやくこれだけ書いた。前途は暗澹として光もないが、老妻に背負われて生きてゆく他はない。それにしても、情けない。なんちゅこっちゃ。

病床六尺に寄せて

ここに載せていただいた一文は、木下先生の教え子である知友から送られてきたものである。私は仕事柄、今日まで多くの脊髄損傷の方々とおつきあひしてきて、それなりにこの疾患について理解しているつもりでいたが、病める人の思いをこの様に赤裸々にぶつけられ、医師であるとは言え、人間の力の届かない世界で苦悩しておられる方々の思いを、せめて御理解申し上げるのが私の責務でなからうかと思つた次第である。

富山県高志リハビリテーション病院は富山市下飯野の田園地帯にある。一階はリハビリ訓練室、二階は事務局、三・四階は主として脳卒中後遺症、最上階の五階は肢体不自由者の階であり、北側の私の病室からは眼下にJR北陸線が走り、その向こうに浜黒崎の松並木が見える。昔の北陸道である。その向こうに松林が広がりそれを越えて日本海が見える。「みなさん、お

後縦靭帯骨化症による四肢障害は全国で年間約百件であるという。確率的に言えば一億人分の百人つまり百万分の一。というところは富山県で年間一人がこの貧乏くじを引く計算になり、ゆこっちゃ。

このメモも、天井から吊り下げたエキスパンダーのパネに僅かに動く腕を通し、金属性の装具に箸を付けたものを拳に巻き付け、パネの力に抵抗しながら、キーボードを叩いて、三カ月もかけてようやくこれだけ書いた。前途は暗澹として光もないが、老妻に背負われて生きてゆく他はない。それにしても、情けない。なんちゅこっちゃ。

TFI 31-6263。御住所は富山市田原町17(西能正一郎)

普及して利用者が増加

休日診療

平成七年度の来院は一万一千百十二人

西能病院が日曜、祝日も休まない年中無休の「休日診療」(内科、整形外科、リハビリ)をはじめたのは昭和六十三年三月。昭和六十三年四月から平成七年三月までの八年間に来院した

病院だより

四月

一日(五階ホール)で新入職員(四月一日付)十三人の入職式。二十三日(入院患者さん十九人が坂倉看護部長ら看護部の七人に引率されて花見ツアー。二日)のつどいを開催。通院バス二台で呉羽山を遊覧したあと、護国神社に参拝、お神酒と神饌をいただいた。(写真は護国神社で)

五月

二十六日(五階ホール)で健康教室。中田医師が「更年期と漢方薬」を講演。



休日診療(元旦と三月の開院記念日の二日間を除く)の患者さんは延べ八万六千三百三十三人となった。休日日数は五百三十五日で、一日平均は百五十七人。平成七年についてみると、休日が六十七日間、来院した患者さんは延べ一万一千百十二人で、これまでの年間最高。一日平均が百六十六人となった。初年度の昭和六十三年度の八千七百四十人から比べて三千三百八十人も増加しており、休日診療が広く知れ渡っていることが伺われる。